



元気っ子

No 312 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

昨日は「納涼会」へのご参加ありがとうございました。ようやくコロナ禍以前のような対面での開催ができたこと、本当に嬉しく思います。

令和5年度のながさわ保育園の行事は「ふしぎ」がテーマとなっています。今回の納涼会でも各ブースがそういった不思議体験ができるようなものになっていったかと思えます。準備段階から職員が調べものをしたり、様々なアイデアを出し合いながら協力して作り上げました。私自身も各ブースを回りながら、本当によく工夫されていると感心しました。ご来園頂きました皆様も楽しんで頂けたのではないかと思います。

近年、乳幼児STEM保育の重要性が益々高まっています。STEMとはS：サイエンス、T：テクノロジー、E：エンジニアリング、M：数学の頭文字をとったものですが、これまでは、例えば、子どもたちが自然と関わった時に、その驚きや感動や不思議さに対する気持ちを重視し、その気持ちを保育士は受け止め、その楽しかったことなどを絵に描いたり、製作をしたりと、アートの世界に表現をしてきました。しかし、これからの時代は、そこで終わるのではなく、その感動、不思議さみたいなことを文化的実践につなげていくことが大切になっていきます。保育の中では、子どもたちの「これってなぜなの?」「こうしてみたらどうなるの?」というような不思議さや疑問を、協同的な学びとかプロジェクトにつなげていくことが重要になってくるということです。これらの幼児期における経験が小学校に入学後、生活科や総合学習のようなアクティブラーニングにつながり、更にはその後の長い人生における「学びに向かう力」の基盤になっていきます。

このように聞くと就学前にたくさん習い事をしたり、教えたりすることが大切だと思いがちだと思います。

以前、日経に「就学前教育は投資効果が高い」の本当の意味というような記事があり、以下のように書かれていました。

《乳幼児がのびのびと過ごせる環境を確保するためには優れた保育人材を確保し、乳幼児保育の質を高めていくことが必要です。そのために、自治体などが管理する公的資金を保育や子育て支援に回すことがより効果的だという話であって、親がたくさんお金をかけて乳幼児の子どもにいっぱい何かを習わせるといい、ということではありません。(中略)

興味を深める力や粘り強く頑張るグリット力(心の力・自己と社会性の力=非認知能力)は、学童期以降、勉強面でも発揮され、学力などの数値に表れます。このように認知能力や人生の幸福の質を高めるベースとしても非認知能力は生きるのですが、注意してほしいのが、その逆はないということです。子どもに早期教育を行い、一定の認知能力を高めたとしても、その結果としてその後、非認知能力を獲得したり高めたりすることはあまりないと言われています。》

子どもたちが持っている好奇心や不思議さへの探究心、友だち同士でのコラボレーションから生み出される活動を大切にしていきたいと思えます。